

第20号記念号刊行に寄せて

長谷川 端

『中京大学図書館学紀要』が、第2代図書館長佐藤隆昭先生の許で発刊されたのは、昭和54年3月であった。当時本学は、商学部・体育学部・文学部・法学部の4学部の、いわば中規模大学であった。大学院商学研究科と文学研究科心理学専攻及び法学研究科には既に博士課程まで設置され、他の体育学研究科と文学研究科の2専攻も博士課程を増設する予定になっていた。本誌は、こうした学内の空気を反映して発刊され、中京大学の学術に関する中枢機関としての「附属図書館」の「紀要」の性格を持つことになった。従って、本誌は、図書館情報学に関する論文、書誌学に関わる研究論文、蔵書紹介、職員の研修報告などにしぼった編集を続けて今日に至っている。

平成6年、本学創立40周年を機に建築されたインテリジェント・ビル(センター・ビルと呼称)の中に設けられたライブラリー・サービス・センター(LSCと略称)は、社会に開かれた私立大学をめざす本学を象徴する施設であり、地域社会の生涯学習の拠点たるべき使命を帯びている。生涯学習社会の到来と新たな学習ニーズとに対応するためには、LSCのより一層の充実が必要である。それとともに、8学部すべてに大学院博士後期課程を増設した本学の学問的水準を維持・向上させるためには、中央図書館たる中京大学図書館、法学棟に隣接して建てられた法学文献センター、そして体育学部・社会学部・情報科学部のある豊田キャンパスに設置されている豊田図書館の更なる機能の拡充が必須である。

幸いにして、平成10年度の私立大学施設設備助成をうけて、本学図書館の電算化は早まり、2001年には図書館全施設に収蔵されている図書の電算処理の遡及が完成する。完成した暁が中京大学図書館の第二の誕生日とな

ろう。大学理事会および全教職員のご支援のもとに、社会に開かれた多機能的な大学図書館をめざし、そうした図書館にふさわしい「図書館学紀要」を育てて行きたいと思う。